

## 日本、グローバルファンドへ多大な支援額を拠出

2019年3月21日

**東京** – グローバルファンドは、国際保健における強力なリーダーシップを示す日本の総額3億3,930万米ドルの拠出を称賛します。

西村康稔内閣官房副長官は次のように述べています。「日本は人間の安全保障を重視し、受益国の主体性と事業の持続可能性というグローバルファンドの理念を支持しています。日本は近く主催するG20サミットとTICAD 7において、グローバルファンドと緊密な連携をとり、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成するための効果的な投資を推進します。」

3億3,930万米ドルの拠出により、日本は、2016年5月にG7伊勢志摩サミット直前に安倍晋三首相が第5次増資で誓約した8億ドルの拠出をほぼ達成します。この拠出誓約額は、前回の誓約額と比べ円ベースで46パーセントの増加で、ドナー国の中で最大の増加率でした。

「グローバルファンドに対する日本のゆるぎない支援に大変感謝しています。」とサンズ事務局長は述べています。「今回再び、日本は受益国のHIV・結核・マラリアとの闘い、さらにユニバーサル・ヘルス・カバレッジの跳躍台となる強靱で持続可能な保健システムの構築を先導しています。」

2002年以来、グローバルファンドはパートナーとの協働により2,700万人の命を救い、グローバルファンドが支援する国々において、エイズ・結核・マラリアによる死亡者数が1/3減少しました。

フランスは、今後3年間にわたるグローバルファンドの第6次増資誓約会議を2019年10月にフランス・リヨンで開催します。

グローバルファンド日本委員会共同議長の逢沢一郎衆議院議員は同委委員会の15周年にあたり、「三大感染症と闘っている世界中の人々を助けるため、日本政府と日本の国民が支援を強化してきたことを大変嬉しく思います。われわれグローバルファンド議員タスクフォースとしても、三大感染症の流行の終息とすべての人々の健康増進という国際目標の達成に日本が大きく貢献できるよう、引き続き取り組んでいく所存です」と述べています。

日本はグローバルファンドの第5位のドナー国であり、2002年以来34億5000万米ドル以上を拠出しています。日本の国際保健分野におけるリーダーシップにより、世界の首脳が集結する2000年のG8九州・沖縄サミットにおいて、今なお最も致命的な感染症であるHIV・結核・マラリアへの闘いを議論し、グローバルファンドの設立のきっかけとなりました。

日本はユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進に主導的な役割を担っています。日本とグローバルファンドは共に、世界で最も脆弱かつリスクに直面している人々の医療サービスへのアクセスの拡大を大きく向上させてきました。

#####

グローバルファンドは、エイズ・結核・マラリアの三大感染症の終結を加速させることを目指す 21 世紀型のパートナーシップです。各国政府、市民社会、民間セクター、患者が協力し取り組みを進めるグローバルファンドは、毎年約 40 億米ドルを集め、100 カ国以上において、地域の専門家の運営によるプログラムに資金を供与しています。グローバルファンドはパートナーと共に限界に挑み、革新的なアプローチを取り入れながら、三大感染症の患者支援向上に向けて取り組んでいます。

本リリースに関するお問い合わせ先：

**Ernest Waititu**

広報部

携帯電話：+41 79 541 0656

E メール：[ernest.waititu@theglobalfund.org](mailto:ernest.waititu@theglobalfund.org)

グローバルファンドについての情報はこちらから：[www.theglobalfund.org](http://www.theglobalfund.org)

グローバルファンド公式 Twitter：<http://twitter.com/globalfund>

グローバルファンド公式 Facebook：<http://www.facebook.com/theglobalfund>